

住用地区統合新学校名（案）分析

応募総数：48 件 有効件数：42 件 （地域住民 16 件 / 児童生徒 20 件 / 教職員 6 件）

※「東城小中学校」（既存校名のため除外・5 件）および「義務教育学校住用学園」（校種未確定のため除外・1 件）を除いた有効 42 件を対象に分析。

1. キーワード別傾向 （有効 1 案目 42 件・重複カウントあり）

テーマ	件数	割合	主な特徴・背景
「住用」を含む	22 件	52%	住用地名の継承を最優先。全区分で最多。地域住民・教職員に特に強い。
自然・地形テーマ	17 件	40%	マングローブ・清流・黒うさぎ・島音など住用固有の自然資源を反映。
明るさ・希望テーマ	7 件	17%	輝・スマイル・星彩・白凧など子どもの未来への期待を表す表現。
絆・結テーマ	3 件	7%	「結」「ゆい」など 3 校統合・地域コミュニティの融合を象徴。
「奄美」を含む	2 件	5%	広域認知・世界自然遺産との接続。奄美住用学園など。
三太郎・歴史テーマ	2 件	5%	住用の代表的スポット「三太郎峠」への地域的愛着。
「東城」を含む	1 件	2%	「すみようとうじょうがっこう」のみ（東城小中学校は除外）。

2. 複数票を獲得した有効校名案 （1 案目・2 案目合算）

校名案	票数	区分内訳	評価・特記
住用小中学校	8 票	地域住民 3・児童生徒 2・教職員 1（2 案目含む）	全区分から最多支持。「地名継承」「歴史的定着」と理由も明確で説得力が高い。
住用学園	6 票	地域住民 5・教職員 1（2 案目含む）	シンプルかつ住用地名を端的に示す案。地域住民から安定した支持。
マングローブ学園	2 票	児童生徒 1・地域住民（2 案目）1	住用を代表する自然資源。知名度・独自性が高く対外的なアピール力がある。
奄美中央学園	2 票	地域住民 1・教職員 1（2 案目）	特定地区名を避け広域性を持たせた案。住用地名が入らない点が議論になりうる。
星彩学園	2 票	児童生徒 2（住用中学校）	住用中の生徒 2 名が支持。ただし住用との地域的繋がりが校名から読み取りにくい。
三太郎学園	2 票	児童生徒 2（2 案目含む）	三太郎峠への愛着。住用らしさを感じる地元ならではの名称。

3. 区分別の傾向

区分	有効件数	最多テーマ	傾向まとめ
地域住民	16 件	住用地名継承 (52%)	「住用」地名の継承が最優先。マングローブ・世界自然遺産との連動案も多く、住用町への強い帰属意識と誇りが伝わる。
児童生徒	20 件	自然・感性・希望 (45%)	自然や感性・明るい未来を表す多様な案が目立つ。学校ごとに傾向が異なり、現行校名への愛着も一部残る（東城小は除外済み）。
教職員	6 件	住用地名 + 自然理念	「住用」地名を軸に、自然遺産・黒うさぎ・マングローブなど教育的テーマと結びつけた提案。根拠が丁寧で専門的視点あり。